

- 平成23年度 甲府市  
ボランティアセンター年間行事
- 5月 福祉のこころ醸成実践校事業担当教諭連絡会議
  - 6月 ボランティア入門講座
  - 7月 災害(防災)ボランティア養成講座  
中・高校生と障害児・者ふれあい交流会  
「ふれあいチャレンジフェスタ」
  - 9月 甲府市総合防災訓練参加(災害ボランティアセンター設置訓練)  
甲府地区ボランティア交流会  
「ボランティア博2011 in こうふ」
  - 10月 赤い羽根共同募金活動(~12月)
  - 11月 活動紹介事業(県民の日)  
全国ボランティアフェスティバル参加(東京)
  - 12月 歳末助け合い募金街頭募金活動
  - 2月 ボランティアアドバイザー研修  
活動紹介事業

★ボランティア情報紙発行  
★平成22年度福祉のこころ醸成実践校活動集発行

★ボランティア保険  
ボランティア保険切り替えの時期です。平成23年度受付を開始しています。甲府市社会福祉協議会(甲府市ボランティアセンター)にお問い合わせください。

★ペットボトルのキャップ回収のおねがい  
皆様のおかげでたくさんのペットボトルのキャップが集まっています。たくさんのご協力ありがとうございます。  
※回収されたキャップの中には、醤油のキャップ、金属製のキャップなどペットボトルのキャップ以外のものもたくさん入っていました。ペットボトル以外のキャップは入れないようご協力をお願いします。

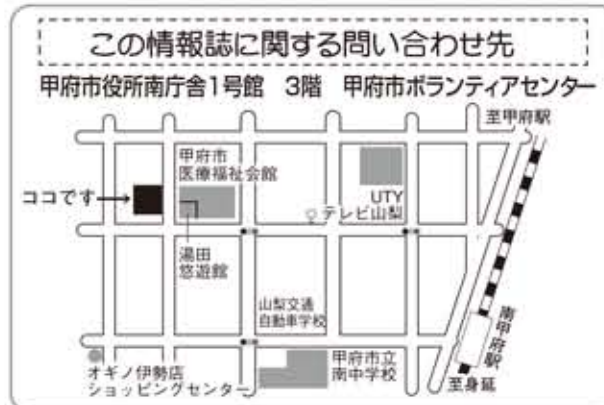
甲府市ボランティアセンターホームページが簡単に見られます

インターネット接続⇒ヤフー⇒文字入力「甲府市ボランティアセンター」検索⇒ホームページが開きます。

▽「甲府市ボランティアだより」は、ホームページ内にもPDFファイルで載っています。  
バックナンバーもご覧になれますので、ご感想をお待ちしております。甲府市ボランティアセンターまでTELかFAXでお寄せ下さい▽

- ★ご協力ありがとうございました(平成22年11月1日から平成23年1月31日まで)(敬称略)
- ◎使用済み切手・・・稲垣由美子(大里町) 曾根瑠璃子(大里町) 遠藤昌雄(上石田) 小林昭造(右左口町) 里垣民生児童委員 松土ふく子(新田町) 甲府中央郵便局 高橋ひとみ(住吉) 点字サークルてんとう虫 大久保文子(国玉町) 甲府市社会福祉協議会ケアマネージャー 甲府市役所福祉部 春日地区桜町中部自治会 漆間和代(北新) 南宮登美子(飯田) 小口敦子(伊勢) 岩間美恵子(住吉) 市川孝次(伊勢) 志村量一(甲斐市) 甲府市民吹奏楽団 望月好訓(武田) 北村綱枝(湯田) 郵便局(株) 甲府東部会(株) じょうほく物流 橋爪隆(太田町) 貴川幼稚園(徳行)
  - ◎牛乳パック・・・坂本和子(蓬沢) 市村浪江(伊勢) 石川あき子(愛宕町) 小松松江(城東) 茂手木勝子(真川本町) 稲垣由美子(大里町) 曾根瑠璃子(大里) 絵手紙ボランティアなごみ 小林昭造(右左口町) 松土ふく子(新田町) NPO法人みどりの学校 吉野正男・吉野和子(湯村) 山内花音・山内玖思(湯村)
  - ◎その他(ベルマーク・使用済みテレホンカード・エコキャップ・書き損じハガキ・洋服・ブルタフ)  
村松富重(湯田) 春日地区桜町中部自治会 郵便局(株) 甲府東部会 松土ふく子(新田町) 市村浪江(伊勢) 住川恵(北新) 小口敦子(伊勢) 甲府市教育委員会 市川孝次(伊勢) 志村量一(甲斐市) 依綾花(善光寺) 秋山今朝恵(伊勢) 藤村ケサエ(上石田) 篠原邦子(湯部) 堀内強(上合井) 塩澤しげ子(蓬沢)

暑さ寒さは彼岸までといいますが、良くしたものでこの季節になると草花の新芽がいつの間にか出始めて来ていますね。  
ボランティア、何気なく始めて数年、いつまで続くのか、気が付いてみれば終わってしまったボランティア、いまでも続けているボランティア、人が集まらなると出来ないこと、一人でもできること、人それぞれに想いを込めて出来るボランティア始めてみませんか。  
(編集ボランティア 土屋 久)



編集ボランティア: 鮎沢ゆき子・市川孝次・高野智代子・土屋 久  
編集・発行 甲府市社会福祉協議会・甲府市ボランティアセンター ●発行部数5,500部  
〒400-0857 山梨県甲府市幸町15-6 TEL・FAX 055-223-1061 E-mail:k-vc@kofu-syakyo.or.jp  
http://www.kofu-syakyo.or.jp(甲府市社会福祉協議会のホームページ)

# 甲府市ボランティアだより

やってみよう! ボランティア

ボランティア団体  
グループ紹介

2011年春号 No.68

## 「母と子の笑顔を守る会 甲府支部」

私たちは、わが子を育てている自らの経験と知恵を、若いお母さん達にどんどん伝えようと立ち上がりました。座談会を開いて問題予防に努め、また、会報などで情報を提供することでお母さん達が笑顔で子育てできることを願っています。

また、配信無料の「すくすくメール」でもお母さんを応援しています。  
「すくすくネット」もあります。

甲府だけでなく、名古屋、豊川、京都、春日井市等、他の都市にも仲間がいます。



ボランティア博  
2010 in こうふ  
での  
ブースの様子



《あなたの携帯に毎朝定時に配信》

# すくすくメール

月曜～金曜配信で、土曜と日曜はお休みです!

E-mail kateikyoku2008@kcd.biglobe.ne.jp

あったかいのがうれしいね!!

# 広げよう ボランティアの輪

## 「山梨エコユースフォーラム」がグランプリ受賞 全国大学生環境活動コンテスト

昨年12月に行われた全国大学生環境活動コンテストで、山梨エコユースフォーラムがグランプリを受賞しました。

このコンテストは、全国51の学生団体がそれぞれ環境活動について発表し、その内容を競うもので、県内団体では初めての受賞になります。

「山梨エコユースフォーラム」は、県内の大学生により「山梨県にもっとエコを広めよう!もっとみんなを巻き込もう!」と、2007年に結成されました。環境保護意識を高めるため、様々なプロジェクトを立ち上げ、福祉施設や地域住民とのつながりを大切に活動を進めてきました。

なかでも、空き缶の灯籠作りやマヨネーズ清掃は、楽しみながらエコを考えるアイデア満載の取り組みとして好評です。

今後はいろいろな活動を企画、実施し、地域の人たちと一体となり、「エコのまち山梨」をめざしていきたいという「山梨エコユースフォーラム」の皆さんです。



マヨネーズ清掃の様子



グランプリ受賞の様子

# まちかどボランティア

## 妖怪isogashi's

昨年の夏、ある偶然の出会いが新しいグループの誕生となりました。オカリナとピアノを演奏する杉山悠美



さんとクラリネットの演奏を得意とする梅田みほさんの二人のグループで、名付けて「妖怪isogashi's」だとか…2人とも忙しすぎること

から名付けたそうです。施設を訪問し、子どもたちを集めてのライブが主で、昨年の12月はクリスマス会が続いて大忙しだったとの事。年明けには子どもたちを集めて「新春ライブ」を開いたが、楽器の演奏だけではなく、時にはパネルシアターや手遊び、体操などを交えて行うので退屈することなく楽しんでもらっているそうです。老人や障害者、スタッフ、家族の方などに喜んでもらえて、なにより自分達が楽しいのがいい…と目を輝かせる2人は決して「妖怪」ではないステキなお姉さまたちでした。

## ボランティア豆知識

### フードデザート 「食の砂漠」について

フードデザート(食の砂漠)とは…

- ・生鮮食料品店への買い物利便性が極端に悪いこと
  - ・自家用車を利用できない社会的弱者(高齢者)の顕在化
- この二つの要素が重なったときに発生する社会問題です。

フードデザートの問題で悩んでいる人達は、買い物に行く手段では徒歩・自転車が少なく、一度にたくさん品物を買うことができません。

その他にも、近くに小売店があっても生鮮食品の取り扱いをしていなければ、レトルト食品や缶詰などを買って食べる生活を余儀なくされています。

そのために栄養バランスの良い食事を、毎日とることが困難になり、栄養失調などの健康被害を被る可能性も出てきています。

◇栄養失調にならないためには、下記の10品目を目安として摂取することが良いと言われています。

**肉・魚・卵・牛乳・大豆・緑黄色野菜・海藻類**

**いも類・果物・油脂**

毎日、最低でも**3品目以上**摂取する必要があります!

まだフードデザート問題の根本的な解決策はない、と言われています。しかし、求められる対策としては「人と人とのつながり」が重要であるとされています。

## 市さんのおじゃまします

### 「交通安全のために」と「ミニわらじ」を作る村松富重さんを訪ねて

乗用車のフロントガラスに吸盤からぶら下がっているアクセサリ。それが小さな草履だったら、この人の作品かもしれない。交通安全への願いを込めて、手作りのミニわらじを警察署へ贈っている村松富重さんに、お話を伺いました。

「きっかけですか。家内が亡くなって8年ほどになりますが、病院で看護していた時、何かお守りみたいなものをと思って、作ってみました。」

「戦前のこどものころ、田舎では農家の子はもちろん、非農家の子もみんな藁草履を作ったものです。履物もあまり買えない時代でしたから、熱中しましたね。みんなから「わらじ」なんてあだ名で呼ばれていましたから、出来栄は良かったのだと思います。」 — 私の村にもそういう名人がいましたねえ、と相槌を打つ。

「そんな経験から、ミニわらじも、うまく出来ました。病室でまわりの患者さんにも分けてやって大変喜ばれましたし、そのあと知人・友人にも好評でした。最近、南甲府署へも贈っています。ドライバーの皆さんに、安全運転を呼びかける材料として渡してもらっています。草履は昔ながらの履物ですから、旅の安全を願うという思いを込めての発想ですね。」 — 交通安全につながる最高の贈り物ですねえ。

「藁をこの刺繍糸に代えて編むんですが、藁草履を作ったことのある人だったら、縮小しただけですから難しくはありませんよ。ただ5~10分の1と小さいので根気は要りますね。作り方を教えてという人もいましたが長続きしませんね。」

「この小さいのもいいですね、と聞くと、「ケータイ用にストラップをつけたら用途が広がりました。」とのこと。お値段はと聞くと「売り物ではありませんから差し上げますよ」と分けてくれました。ほんとに「かわいい」ものです。

草履を編む手を動かしながら、少し前の活動を話してくれましたが、たいへん控え目なので、あとで地域の人からもお話を聞きました。

「地域福祉活動推進員として、ふれあいネットワーク活動を進めるために、連絡会の中心となって活躍されました。配食ボランティアとしても評判がよく、皆さんから喜ばれていました。もっと素晴らしいのは、それぞれの活動をあとの人たちに確実に引き継いでいることではないでしょうか。」 — 心が洗われる思いがしました。

(編集ボランティア 市川孝次)

